



〈大地震を想定した総合防災訓練〉 3/4 (水)

# あゆみの家

No. 107号

## 「ふおり」サポーター

JR大垣駅の北側に大型ショッピングモールドアークアウオーク大垣」がありま  
す。西濃福祉の店「ふおり」は、その「階」にあります。

「ふおり」では、西濃地域の障がい福祉サービス事業所で働く人たちによつて  
作られたカステラやケーキなどの食品、エコ石けんや工芸品など多様な製品  
が売られています。

開店以来、その運営は岐阜県からの補助金に依拠していましたが、昨年三  
月で打ち切りとなりました。

このため、参加する福祉事業所による運営協議会が立ち上がり、お店の存  
続のための協議が重ねられました。運転資金の確保が最も大きな課題でした  
ので、「ふおりサポーター」(賛助会員)を募り、支え手になっていただくことと  
決まりました。その後、福祉事業所の職員や利用者のご家族、企業や一般の  
皆さまに呼びかけ、サポーターとしてご協力を得られるようになりました  
(個人会員二三〇人、法人会員二社)。それ以来、二年が経過し「サポーター  
」の更新の時期を迎えています。

運営協議会では、資金不足が続く中、新たなサポーターの呼びかけをつて  
います。是非ともサポーターになつて「ふおり」を支えていただきたいと思ひ  
ます。

利用者のみなさんが心を込めて作った製品を販売できる福祉の店が存在  
することで、地域がとても豊かになります。みんなが、「ふおり」を応援しま  
しょう。

ふおりサポーターの申込み お問い合わせは、事務局 あゆみの家内  
〇五八四二二四三三三 又は、ふおり 店頭までお願いします。

自宅を片づけをして、長年にわたって集めてきた新聞の切り集めなどがあります。最近になって、亡夫(※)ジョン・ボーマン牧師、あゆみの家元施設長)がルーテル・アワー新聞に寄稿した記事を見つけた。一九六六年一月、私たちが大垣に移り住んだ直後に書かれたものです。私たちが家族は一九六六年八月に大垣に来ました。当時、教会はなかった。使用しました。あゆみの家のことはまだ考えられませんが、その頃の亡夫の考えに興味のある方もいらっしゃると思います。記事を紹介いたします。(理事 ベルニダ・ボーマン)

1966年 11月号 【第120号】

# 東海地方 ルーテルアワー新聞

昭和32年3月20日 第三種郵便物認可

毎月一回一日発行 一部 定価五円 送料六円

**今月の聖句**  
 望みをいだいて喜び、  
 かん難に耐え、常に祈  
 りなさい。  
 ローマ12・12

昭和41年11月1日発行  
 発行所 ルーテルアワー  
 名古屋セントラルビル  
 名古屋市中区丸の内5丁目14番  
 電話(541)1103番  
 振替名古屋2392番  
 編集発行人 松本光二  
 印刷所 小川兄弟社  
 名古屋市中区中道町2

2015.1.16 (2)

## すべての事に

# 感謝

しなさい

「すべての事について感謝しなさい。これがキリスト・イエスにあって神があなたに求めておられる事である」  
 (テサロニケ第一5・18)

—ジョン・ボウマン—

## 今日は素晴らしい日ですね

今日は本当に素晴らしい日です。今日、数人のお客がうちへ来ました。必ず玄関で「今日は素晴らしい日ですね」と言います。又、道である人々も同じように「今日はいいお天気ですね」とよく言います。その人々は、一般の人達です。教会の信者というわけではありませんが、その人々の中には心の中に持っている感謝の気持ちを表わしている人々もいます。私達は三位一体の神様を知っているのですから誰に感謝すべきかわかりません。しかし、わかりながら、いつも感謝しているというわけではありませぬ。何か自分に都合のいいことには感謝しますが、一寸、都合のわるいことだと感謝しません。今日のお天気が来たようとき、人々は感謝

※感謝すべきことを  
 知りません。神様を知らないから心の中に持っている感謝の気持ちを表わしてあげておきましょう。その点で、キリストを知る人々には、キリストを知らぬ人々とは、全然違います。使徒パウロはよく難しい事柄にぶつかりました。しかし、キリストと共にいましたので、どうにか問題を解決すべきかよくわかりました。ピリピ四・六、十一―十三で、彼の解決のしかたが、よくわかります。



少し前に、大学時代の友人から手紙をもらいました。その友人は、ニューギニアで御言葉を教えています。パウロと同じような大きな問題

にぶつかりました。そしてパウロと同じようにキリストと共にあって解決しました。彼の教会で、信者もとの迷信にもどって行くという問題にぶつかったのです。一年間に数人の信者が死にました。その時に前の神々がおこつたので、死んだのだと考えて、最もおそろしい前の習慣にかえっていったのでした。その次に又信者が死んだ時も同じようでした。ところが、友人の一寸の子供が病気を愛している親は大へん悲しみました。しかし友人の子供が死んだこと、死ぬことは神々の働きではないということがはつきりとなりました。友人は、そこで、愛する子供の死には、何かよい神様の目的があるのだと、考えたのです。多くの人がその子供の葬式に参列しました。親の立派な態度をみて、もう一度死についての正しい考えを持つようになり、子供が死んだらどうしよう。そこに神様の働きをよく見なければなりません。

その日神様の恵は充分です。どうですか、これから小さい問題、いや大きな問題でも、主において感謝しましょう。すべての事について感謝することこそ、神様が、あなたがたに求めておられることなのです。(日本福音ルーテル大垣教会牧師)

『工芸作品を通して』

デイセンターあゆみの家 生活支援員 大田 望未

デイセンターでは、週に二日の創作クラブの時間にピ  
ンチやクリップなどの小物作りや、さをり織りを行い、工  
芸作品を作っています。また、新たにアイデア  
昔から作っている作品もあり、また、新しい組んでいま  
す。出し合ひながら、新しい作品作りにも取り組んでいま  
す。工夫をしながら、利用者の方の手で作っていただけよう  
に。作品作りでは、一つの作品を完成させるために、たく  
さんの工程があり、それぞれの工程で利用者の方一人ひ  
とりが自分の得意なことを生かす。心を込めて一生懸命  
に作品作りをおこなって、おもしろい。どの作品にも利用  
者の方の個性や味が出ており、同じ物を作っても、絵具  
の塗り方やタイムの貼り方などによって全然違った雰囲気  
な物ばかりです。どれも世界に一つしかない特別  
な物ばかりです。『養老サービスエリア』や『ふのり』  
センターなどで販売していただきます。それ以外にも、直接  
セーターなどに注文してくださる地域の常連さんや会社から  
粗品に使用したいというところで、たくさん注文をいた  
だくこともあります。直接お客さんと接する機会  
も多々、作品を手にとって見てくださるお客さんか  
ら「みなさん器用ですね！どうやって作っているのです  
か？」あゆみの家「どこにあるのですか？」など、利  
用者の方やあゆみの家について関心をもつて買い物をし  
てくださいます。また、作品を買ったというお客さんか  
ら、作品の感想と共に利用者の方に応援のメッセージを  
くださることもあります。利用者の方が作った作品を地域で販売して

いくことで、工芸作品を通して「利用者の方のことも  
思っていただき、あゆみの家のことを知りたいたい」と  
思っています。地域とのつながりをもつこと  
ができて、利用者の方も自分たちの作った作品が売れたと  
いうことが喜びや、やりがいができている。作品作りによ  
り、意欲的に取り組むことができ、物販とつながり、作品作  
り、しかし、自分たちで作った物を売るといふことの厳し  
さは、直面することもあり、全体的に調子がいいから  
で「買ってみたいけれど、すぐ壊れてしまった」「かわ  
い」と思ってみたり、買ったけれど、すぐ壊れてしまった  
といったことがあつたり、いろいろな視点から意見を  
見たい。このように、意見をいただくことで、自分たち  
で作った作品を、お金を払っていただくことで、自分  
には、責任が生じてくることを実感することができまし  
た。こうした経験をプラスに捉えていき、個性や味を大切にし  
工芸作品の特徴である利用者の方の個性や味を大切に  
ながら、このように、見せたい  
り、と受け止める。作品作りを通して  
て、ことが、今後、作品作りを通して  
りや、つなぐの地域のつながりができ  
るのだと考えられています。一緒に  
この工芸作品作りを通して、地域に  
に「工芸作品作りを通して、利用者の方  
がいろいろな挑戦ができる場を作  
いを広げたいです。」



## オリーブの成人式

オリーブ 児童発達支援管理責任者 右馬野 将高

オリーブでは今年度二名の利用者の方が新成人を迎えられ、先日オリーブの活動の中で成人式を開催し輝かしい未来へ向かう門出を祝い、お二人を中心にあたたかな時間を共有しました。

オリーブの成人式では、オリーブの仲間たちや支援者から激励の言葉に始まり、さらにサプライズとして家族の方からのお祝いの手紙を紹介。感激の涙：を超えて号泣となつてしまった利用者の方に対して、もう一人の利用者の方がさりげなく気遣いをされて息の合ったお二人の様子を垣間見るともできました。

そして、新成人の誓いとして本人たちからも自分の言葉で将来への思いを発表していただき、希望に満ち溢れた大人への第一歩を始められました。お二人が成人を迎えられるまでには、辛いこと苦しいことを含めていろいろな出来事があったことと思います。家族の方からの手紙でも、はじめは目の前のことが受け入れられず何度も泣いたけれど少しずつ成長していく姿を見て元



気をもらった：と綴られています。そんな毎日の中でも、しっかりと前を向いて歩んで生きてきたことが、こうして立派に新成人を迎えられた原動力となったのでしよう。

最後にはオリーブでの二年間の様子をDVDで流し、参加者の皆でお二人の成長を確かめました。お二人は二〇歳という節目の年を迎えられましたが、

まだまだ人生の通過点です。それぞれに夢や希望をもち続け、今日のこの感動を忘れずにこれからもいろいろな出会いを大切に充実した毎日を送んでいっていただきたいと思います。あと思っています。それと同時に、それが実現するように支援者としてできる精一杯のことをしていきたいなあと感じさせられました。

最後に、新成人を迎えられたお二人に、そしてご家族の皆さまに心よりお祝いを申し上げます。新成人おめでとうございます！



## 「地域の中で・・・」

とうだいまえ 生活支援員 近藤 清子

お客様が、喫茶店の戸を開けると、「いらっしやいませ！」と、大きな声がホールにひびきます。生活介護事業所「とうだいまえ」(喫茶&リサイクルの店)が、芭蕉の「奥の細道むすびの地」である大垣市船町に開所して、三年目になります。住吉燈台の東側に位置し、力強い筆文字で書かれた看板が目印です。オープン当初は、ケーキと飲み物だけのメニューでしたが、現在では、茄子丼・親子丼・南蛮丼・焼きそば・カレー等、六種類のランチメニューを提供しています。お客様も、近所の方・近隣の芭蕉記念館や福祉会館を利用される方、そして、観光客の方などと、常連さんも定着してきました。

「とうだいまえ」では、掃除・食器洗いが大好きなYさん、タオルをくるくると丸め上手におしぼり作りをするNさん、柔和な対応でホールでの接客を自然体でこなすSさんといった三人の利用者の方が働いています。

それぞれ得意分野を生かした役割分担の中で、利用者一人ひとりも「自分の仕事はこれだ！」という、仕事に対する自信も見受けられます。お客様からも「元気がいいね!」とか、利用者が作った折鶴の箸置きを見て「上手に折ってあるね。かわいいから持って帰っ



お店周辺のゴミ拾い

てもいいですか。」などと、お褒めの言葉を頂くこともあります。直接返されるお客様の言葉に、利用者の方は、ますます地域の中で働く喜びを感じています。

また、今年度は、地域奉仕活動の一環として大垣市の「美しい街づくり推進団体」に登録し、月二〜三回、お店周辺のゴミ拾いを実施しています。

去年六月から、生活介護事業所「オアシス」の活動場所が、「とうだいまえ」に移ってきました。普段、日中活動は、各々の作業があり一緒に活動しているわけではありませんが、合同でクリスマス祝会のステーション発表をしたり、新年会を一緒にやったりしました。オアシスも、とうだいまえも利用者が三〜四名と少人数のため一緒に行事に参加することで、活動にも活気が出てきます。新年会の、二人羽織ゲームも大変、盛り上がりました。今後、それぞれ独自の活動を尊重しながらも、時として、共有する場面も持ちながら、お互い刺激し合って活動していきたいと思えます。

また、「リサイクルの店」は、あゆみの家保護者会の有志の方、大垣友の会の方、個人ボランティアさんなどと多くの無償スタッフさんに店番をお願いして運営しています。

こんなふうにして、喫茶店で働く利用者に温かい言葉かけをしてくださる地域の皆さん、そして、リサイクルの店の無償スタッフの皆さんといった多くの人々に支えられて成り立っているのが「とうだいまえ」です。



新年会 (二人羽織)

こんにちは！綾野ホームです

きずな2006

サービス管理責任者

生活支援員 高月 晴菜

白井 裕美

二〇一四年一二月、大垣市綾野地区に新しく綾野ホームを開設しました。静里ホームの老朽化に伴う転居です。

静里ホームでの生活最後の日、ホームのみなさんと近所の方に引っ越しの挨拶を行いました。みなさん口々に「寂しくなるねえ」、「どうして引っ越しの？」と言われ、静里ホームがあたりまえにこの地区で生活できていたのだなという感じでした。「九九九年の開設以来、約一五年間静里下塩田地区の一住民として生活をしてきた最後の日に、近所の方から温かい言葉をかけていただけましたこと、とても感慨深い日となりました。」

静里ホーム開設当所、近所の方にできるだけ知っていたり、近所を散歩したり、その際の挨拶を心がけていたというのを当時のスタッフから話を聞き、こういった毎日の積み重ねが良い近所関係を築けた根底にあると思います。また、地区のゴミ当番や防災訓練・溝掃除なども積極的に参加し、一住民として役割を行ってきました。そういった日々を過ごしていく中で近所の方とのコミュニケーションケーションも広がっていったように思います。過去には、近所の方が一人で外に出ていた利用者さんに声をかけ、一緒にコンビニまで行き買い物をして帰ってきてくださったこともありました。「きつと〇〇が欲しいのだろう。」と気づかれ、一緒に買い物に行ってくださいました。こういった安心のある地域に住むことができたことは本当に良い思い出（経験）になったと思います。もちろんこの一五年の間に少なからず近所の方から心配事や苦情を受けたこ

ともあります。そのいった方からも、最後の挨拶の時には、引っ越しを伝えると「なぜ？」というふうな声をかけていただけました。意見を頂いたときに真摯に対応してきたことと、最後にこのような形を迎えることができたのかなと思えます。

さて、綾野ホームに移って数ヶ月が経ちます。引っ越して間がない頃はこまごまとした設備が整っていません。静里ホームの利用者の入れ替えがあったりと、慣れない環境・状況であれこれと困ることもあったようですが、今では皆さんすっかり生活に慣れたように見受けられます。ホームで生活している方々に、新しいホームでの生活はどうですか？と、尋ねると、「綺麗でいいわ」、「窓が大きいし、南向きにリビングがあって日が入るから嬉しい」等、新しいホームを気に入っておられます。休日、ホームの皆さんと散歩にかけたり、外に出たとき等で近所の方の顔を見ると挨拶はするものの、まだ近所の方々の顔と名前が一致してない現状の中で、職員・利用者共に不安があります。ですが、静里ホームで積み上げてきた経験を活かし、自治会行事だけでなく、挨拶などの日々のささやかなことを通じて地域の方々の交流を深め、綾野地区の一員として、また一から地域の方々との関係性を作り上げていきたいと思えます。静里ホームが地域の方々から愛されたように、綾野ホームもそんなホームになれるよう頑張ります。今後は、「綾野ホーム」をよりしく願います。



綾野ホーム外観写真。黄色の壁で可愛らしいお家です。

# 出来事ピックアップ



デイセンターあゆみの家  
新年会(1/5)



林町デイセンター  
もちつき体験(1/15)



ぐっどらんど  
綾里小学校レクリエーション交流(1/28)



ナブテスコ(株)様より電動車椅子の  
寄付をいただきました。(3/10)



第二あゆみの家  
30年を記念した大垣フォーラムでの  
食事会(2/28)

行事予定

4/4(土) 創立記念行事  
4/25(土)~26(日) あゆみの家バザー

最近のできごと(12/1 ~ 2/28)

- 12/3(水)わくわくプログラム『紅葉狩り』(デイセンター)
- 12/5(金)綾里幼保園交流(ぐっどらんど)
- 12/9(火)合原小学校ふれあい交流(第二あゆみの家)
- 12/17(水)綾里小学校 作業体験交流(ぐっどらんど)
- 12/20(土)クリスマス祝会(林町デイセンター)
- 12/23(火)あゆみの家 クリスマス祝会
- 1/5(月)新年会(第二あゆみの家/デイセンター)
- 1/9(金)もちつき大会(第二あゆみの家)
- 1/15(木)新年会(すまいるらんど)
- 1/15(木)もちつき体験(林町デイセンター)
- 1/28(水)綾里小学校レクレーション交流(ぐっどらんど)
- 2/8(日)第4回 交流会(就業・生活支援センター)
- 2/24(火)精神障害のある方の雇用促進セミナー(就業・生活支援センター)

ふれあい交流(10/1 ~ 1/31)

延べ: 2回 30名  
<学校名>  
合原小学校

ボランティア(10/1 ~ 1/31)

延べ: 35回 123名  
(団体: 89名・個人: 34名)

<ボランティア団体名、学校名> ※順不同  
大垣友の会/養老町赤十字奉仕団/静里日赤/つばき会/マザーの会/ワイワイクラブ/大垣女子短期大学/大垣養老高等学校/不破高等学校/高田中学校/垂井北中学校/不破中学校

アルミ缶リサイクル協会様よりあゆみの家が表彰されました。(2/25)



あゆみの家バザーのお知らせ

4月25日(土) 10:30~16:00  
4月26日(日) 10:00~15:00  
会場 / 垂井町文化会館

ご家庭に眠っているまだまだ使える不用品の献品もよろしくお願ひいたします。

編集後記

先日、岐阜県福祉人材総合対策センター主催の「福祉の仕事就職フェア」に参加しました。これは、福祉の仕事を目指す学生などの求職者が福祉事業所の採用担当者に仕事内容などの説明を聞くことができる合同説明会です。ここ数年このフェアに参加する学生が年々少なくなっていると感じます。福祉を学ぶ学生は年々減少しており、さらにその学生のうち約半数以上が、一般の企業へ就職しているそうです。残念ながら福祉の仕事は3K(きつい、給料が安い、汚い)の大変働きづらいイメージが浸透してしまっているようです。この人材不足の状況が続くと、必要な福祉のサービスが必要な人に届かなくなってしまいます。福祉の仕事は働く喜びが得られる、すばらしい仕事だと思います。将来の仕事に迷っておられる学生さんや若い方がおられましたら是非、「福祉の仕事をやってみたら!」と紹介していただきたいと思ひます。皆さんで、日本の福祉の大ピンチを救ってください。(小林)

編集: 社会福祉法人あゆみの家

〒503-2123 岐阜県不破郡垂井町栗原2066-2  
Tel 0584-22-4333 (代) FAX 0584-22-4344

URL <http://www.mirai.ne.jp/~ayumi>

E-mail [ay464h@he.mirai.ne.jp](mailto:ay464h@he.mirai.ne.jp)

グループホームのご案内

- あゆみホーム Tel 0584-82-3056
- めぐみホーム Tel 0584-22-4345
- 東神田ホーム Tel 0584-22-2264
- 岩手ホーム Tel 0584-22-3032
- いなばホーム Tel 0584-92-0792
- 青柳ホーム Tel 0584-89-6231
- 綾野ホーム Tel 0584-92-2405
- 表佐ホーム Tel 0584-23-3305
- 大門ホーム Tel 0584-22-5079
- あいかわホーム Tel 0584-23-0822